

モッピー知ってるよ

頭ハッピーセット

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

モツピー知ってるよ！モツピーがヒーローだって！モツピーがヒロインだって！

目次

モツピー仲良くしたい	1
モツピークロワツサンが食べたい	6
モツピーバイキングで山盛りに取りたい	10

モツピー仲良くしたい

「次の方、篠ノ之箒さんお願いします。」

緑髪巨乳童顔眼鏡と属性てんこ盛りの先生、やまやんに言われて私は高らかに宣言する。

「モツピーだよ！モツピー知ってるよ、皆仲良くね！」

天へ指差しクラスメイト全員の日線はモツピーのものに！痛い！

「巫山戯が過ぎるぞ馬鹿者」

モツピーの後頭部に対戦車ライフルにも匹敵する出席簿が爆撃されたんだよ！モツピー知ってるよ！それって体罰になるって！

「ここはありとあらゆる国、団体の干渉はない。故に法律などクソ喰らえだ。言ってしまうえば私が法だ。分かったな篠ノ之。「ママ！イエスマム！」……分かれればよろしい。」

モツピー知ってるよ……逆らってはいけない存在が世界には幾つも存在するって。モツピーはモツピーで我が道を行くだけどたまには控えめになるのだ。

「篠ノ之って……あの束博士の？」

「おうイエース、タバさんとは仲良くして貰ってるよー！モツピー知ってるよ、タバさんは逃げに逃げてどっかに隠れてるって」

「それは皆知ってるから……」

「モツピーも知ってるよー!」

皆苦笑いしてる……解せぬ。

「お喋りはそこまでだ。篠ノ之は席に戻り続きを始めろ。」

「はいはいチツ」

はっ!殺意!

「……織斑先生」

「今回は不問にしてやる。私も叩きたくて叩いているわけではないのでな。」

セーフセーフセーフ。トリプルセーフで命増える。え?そんなルールないの?

そんなこんなで自己紹介と事故紹介のお時間が過ぎてった。モツピー知ってるよ!イッピー何処にいるんだって思われてるって!



「ええと、ほう「モツピー」……箒だよな」

「モツピーはモツピーだよ!強く気高く美しい大和撫子箒ちゃんじゃなくてモツピー!わかったかいイッピー!」

「いっ……いっぴい……」

これがイツピーねん。

なんでだろうねえ？ 疲れた顔して項垂れてるねえ？

んー、イツピーの見た目と周りの目からして……うん、なるほどね、なるほどね、なるほどなるほどなるほどね。イケメン！とーへんぼく！女の敵！

残念系ハーレム主人公の匂いがぶんぶんするぜえ！

「わかったわかった。も……モツピー久しぶりだな。元気してたか？ 小学校で転校してから何処にいるのか全然分からなかったからさ。手紙も何も届かないしさ」

「仕方ないよね。タバさんとかモツピーって美しいすぎて罪な娘だからさー！ わつるーい人に狙われちゃうかもしれないしー」

「狙われるってなあ……まあ東さんなんで実際隠れてるわけだから言い過ぎでもないのか」

「まあ狙われても私にはまいふえいぱりつとふれんどぼでいがーど！ ミスのほほんさんがいるから平気なのだー！」「なのだー！」

「おわあああ!?!」

呼ばれて飛び出たのほほほーん！

「初めましておりむー。モツピーのお友達なのほほんさんだよー」

「いえーいー」

ハイターツチ!

「え、えつとのほほんさん?」

「そうだよーおりむー。布仏本音。のほほんさんって呼んでくれると嬉しいなあ」

いやーのほほんさんは癒やされるねえ……モツピー知ってるよ。あの胸には夢と希望とロマンが詰まってるって。それでハグするんだもん……確信犯で(かくぶる)

「ねえ……モツピー……どうかしたの?」

「ナンデモナイヨ」

のほほんさんの目が……目が冷たい……

「のほほんさんがボディガードってほう……モツピーはそんな危ない目にあつたのか?」

「んー……学校とか転々としちゃうし生活面の補助ってのが主な役割だったかなあ。私はゆいしよただしきお家に勤めていたメイドさんでもあるのだー! ご主人様は別にいるけどねー。時々モツピーと一緒にお茶したりケーキ食べたりおやつパーティーしたり!」

「次のお茶会は何時かなあ……」「いつだろねえ……」

はあ、とため息つきながら甘味に恋い焦がれる私達……花より団子! 甘い物は何よりも優先される至極の一品なんだよ!

モツピー知ってるよ! お茶会が開かれない原因はかいちよーさん

が少し体重に……だつてこと！

「お、おう……相当仲良くしてるみたいだな。なんか、安心した。モツピーのことだから周りと壁作って一人でいるのかと思つてたよ。良かった。」

そんな一時を過ごしながら授業へ進むのだー。

／／／モツピー知ってるよ……モツピーは強いって！

／／／……

モツピークロワツサンが食べたい

「クラス代表を決めてもらう。自薦他薦問わない。代表になったものはクラス対抗試合、教員の手伝いと時間を取られる事があるが得られる物は大きいだろう。」

ほう、クラス代表とな？モツピーは目立ちたいけど自分の時間はしつかり欲しいのだ。

「はいはい、織斑君を推薦します。」

「私、セシリア・オルコツトを自薦させていただきます。」

「ほう、これで二人だな。」

「なら俺は辞退しても……あ、駄目ですか……」

獣に睨まれるイッピー哀れ要望果たせず爆発飛散。イッピーに拒否権なんてあるはずもないのにね。チッピーは怖い怖い。

「ここはIS学園、クラス代表はまさしくIS操縦技術が求められるはずです。故に代表候補生たる私が相応しいかと。」

「まあだろうけどさ……」

イッピーはやる気ないない、愛がない。

「イッピーIS練習もできるしなんやかんやで多分メリット多いと思っけど本当に辞退しちゃうの？ イッピーISの知識殆ど空っぽ

だってモツピー知ってるよ！ チツピーそれでさつき叩いてたんだしっ!!?!」

「織斑先生だ篠ノ之。」

「おう……ありがとうモツピー。大丈夫か？」

イツピー心配してくれるのはいいんだけど君の話し相手は私じゃないんだよ……頭が割れて増えるう……

「呆れましたわ……織斑先生、辞退できないとのことですが何によって両名何方をクラス代表へ決定するのでしょうか」

「うむ、次の土曜でISバトルでの勝者だ。オルコットが言っていたようにクラス代表にはISが操縦できなければならないからな。」

モツピーわーかつちやった。イツピーのデータは少しでも必要だからイツピーが操縦するチャンスは無理矢理強制的なんだね！

モツピー空気読める娘だから言わないけどね

「他に自薦者はいないな。よし、授業を開始する。教科書を――」

頑張れイツピー……殆ど分からないことだらけだろうけど……



「死ぬ……頭使いすぎて死ぬ……」

「おおうイッピー死んでしまうとは情けない。入学決まったのにどうして教科書の一つは二つ読まなかったのさ。てか捨てたつてモツピーでも予想できなかつたよ」

「今更悔いても仕方ねえ……」

イッピーは死ぬほど疲れてる……話しかけないでやってくれ……

「おりむーチョコ食べるー？今回のチョコはー……きのこたけのこアソートパックう！戦争はだめだよ！」「きのたけー！チョコー！」

「いえーい！」

お菓子が出たらハイタッチ！これが私達の友情の証だ！

「ありがとうのほほんさん……いただくよ。ん、染みるう……」

「イッピーがお祖父ちゃんになった」

「おりむーがおりじいになった」

「おじいちゃんお小遣い頂戴」

「最近の子は怖いなあ……まあ二人には色々助けてもらったから今度休みの日にもお菓子作るよ」

「おりむーの手作りお菓子！」

「モツピーはケーキを所望する！飲み物は任せろーばりばりー」

モツピー知ってるよ！イツピーの料理技術は一人前だって！楽しみだね！

／／／モツピー知ってるよ……モツピーは素直な子だって！

／／／……

モツピーバイキングで山盛りに取りたい

「織斑君クラス代表おめでとー!」

むしゃむしゃもぐもぐ

「……これは一体どういうことなんだろうか」

「織斑君がクラス代表で色々と話がまとまるよー。あ、新聞部呼んだからインタビューお願いねー。これで懐が少し潤う……」

「ここに不正極まりない行為が」

むしゃむしゃもぐもぐ

「皆でパーティー準備したから一杯楽しんでね! ああ、お礼は代表戦優勝のデザート券で大丈夫だから!」

「それ押し売りじゃないんですかねー?」

むしゃむしゃもぐもぐ

「モツピーはひたすら食べてるんじゃないやありません。食べてもいいけど甘いものばかりじゃなくてちゃんとバランスよく食べるよ」

「むー!むー!」

皿を取り上げるイツピー!許さん!食事つてのは誰にも邪魔されず至福のひとつときじゃないと駄目なんだよ!

「むーじゃないよむーじゃ。のほほんさんちよつとこつちきて……つてこつちの方がヤバかった!」

のほほんさんの胃袋はブラックホールさいツピー。甘い食べ物は全て吸引して圧縮して胸に蓄えるトンデモワガママバデイの持ち主なのだよ。

モツピー知ってるよ!甘い物食べてるときのかんちゃんの瞳はのほほんさんを射殺せるぐらいだった!

「あー!おー!おー!おー!おー!何するのさー!」

「二人共お菓子は没収!せめて果物にしなさい!」

「ぶー!ぶー!ぶー!」

モツピー知ってるよ!イツピーは皆からママにされるって!



「他クラス代表は専用機無し！」

「一人未完成で他無いから一夏君大勝利！」

「今レートは……よし、結構増えそうね」

「最後によつと待ったー。確実に賭け事だよね」

ぽりぽりもぐもぐ。皆イツピーに期待大。モツピー知ってるよ！
人生そんな順風満帆じゃないって！

「その情報古いよ」

「ん、おー鈴、鈴じゃないか！変わってないなあ！鈴は！」

イツピー大歓喜！鈴？鈴鈴？猫みたいな子だなあ彼女。凄くマイペースそう。

むむむっ！これは下手に前に出ると発狂されるやつだ！かんちゃんにも発狂しそう！のほほんさんと退避！

「……それってどういうことよ！成長してないとも言いたいわけ！？ちんちくりんてことなの！誰がちんちくりんよ！」

「いやそうじゃなくて……幼馴染の一人がもう別人になってて……良かった……鈴が鈴のまま……」

「あ、そうなの。うー……そんなこと言われたら何を言ったらいいのよ、もう」

イツピー後で覚えてろよー！

天然ジゴロ全力で続けて包丁で刺されてしまえ！

／／／モツピー知ってるよ……モツピーは優しい子だった！
／／／……